

### 3/23～3/24 地方議員研究会セミナー

#### 「参加自治体病院の現状把握」「必ず成果が出る質問の取り上げ方」

講師:井関友伸

報告者:会派 輝 河井美和子

井関講師は、城西大学経営学部教授の傍ら、総務省や内閣府の公立病院の経営や改革の検討委員としてアドバイザーも務める講師である。

「参加自治体病院の現状把握」では、まず病院のお財布事情を確認すべきである、ということで必ず確認するよう紹介されたのが、「地方公営企業年鑑」である。各自治体病院の経営評価のデータで、総務省が毎年公開するもので、相場感を持つために全国の自治体病院と比較したり、過去のデータで推移を把握もできる。財務指標だけでなく、病床利用率や一日平均入院単価、職員給与月額など、経営指標も把握できる。年鑑は、7項目で構成されているが、その中で財務分析の基本となるのが「貸借対照表」と「損益計算書」であり、この2つを読みこなせることが財務分析の基本であるとのことであった。これらの経営指標を一つ一つ全国の市立病院を中心に、強みと弱みを分析していった。

病院経営を分析するもう一つの指標として、病床利用率がある。医師不足、病院間の競争に負けて病床利用率を大幅に減らしている自治体病院が少なくない。過剰な病床を持つ場合は病床数を減らし、看護職員配置の効率化、夜勤必要病棟数の減少による夜勤看護師必要数の減少、病床数を199床以下にすることによる診療報酬増額を目指す事も一つである。病床数が「パワー」であった時代は終わりつつある。「必ず成果が出る質問の取り上げ方」では、新しい地域医療構想の議論を踏まえ、診療報酬制度が大変革されている事を知り、具体的に診療報酬がどう改定されているかを詳しく学んだ。背景には、慢性的な医師不足(医師が都市に集中)、看護師や医療スタッフの不足、患者の高齢化、病院経営の悪化という悪循環がある。その悪循環にあらがう為にも、「新しい地域医療構想」の考え方をいち早く浸透させた経営の在り方、診療報酬の加算を取れる、時代に先んじた経営を考える事が、地方の病院・医療を疲弊させず、経営も安定させる事が出来ると実感した。本市の新南陽病院についても、強味と改善点など、学ぶ事ができ、非常に勉強になった。